

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年10月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174900553
法人名	(有)ひまわりの家
事業所名	ひまわりの家
所在地	368-0004 埼玉県秩父市山田2699 (電話) 0494-22-0644

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年10月16日

【情報提供票より】(平成19年9月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	3 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,300円			

### (4) 利用者の概要(9月17日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.8 歳	最低	65 歳	最高	85 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子クリニック、内田歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりの家は、県西部の秩父山麓に囲まれ、南に武甲山を眺めることのできる住宅地にあり、のどかな風景に加えて、四季折々の自然に触れ合うことができる。当ホームは、2年前に開設され、地域の方々との交流もできている。また、何より医療機関との連携が図られている点は、当ホームの利用者や職員にとって安心で快適なホームでの生活に寄与している。管理者をはじめ、職員一同がグループホームの理念をよく理解されており、実践に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘された内容などを、改善計画シートを利用し、具体的な改善に向けて職員間で話し合っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を取り組むにあたって職員間で評価の意義について共通認識を持ち、話し合いながら自己評価を進めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>討議内容は、ホームの活動報告や家族からの要望の聴取である。また、推進会議の雰囲気づくりに工夫がなされている。会議は利用者とともに食事してから行うなどして、意見が言いやすいように工夫されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や苦情を伝えるための意見箱を玄関に置いていたが、10月より取り外されている。利用者のホームでの暮らしぶりは、利用者一人ひとりの様子を記載した便りで報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々が、日常的に訪れて、とれた野菜を届けてくれているなど、地域との交流はできている。ただし、災害対策についての連携が取れてはいないようである。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けることができるように、独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念を斉唱しており、利用者と家族のような付き合いができるように心がけている。管理者と職員は、理念のもつ意義について、会議等の席で話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地域の行事やお祭りなどに参加している。また、日常的に野菜を届けてもらったりなど、地域の方々との交流も頻繁である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で指摘された事項については、改善計画シートに詳細に記入されて、具体的に改善に向けての努力をされている。評価結果を活かした取り組みがなされている。自己評価に取り組むにあたっては、職員間で評価の意義について共通認識をもち、話し合いながら進めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年6月より運営推進会議を開催している。これまでの2回の中でホームの実情を報告し、意見や要望などを出してもらうように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へ疑問点などを相談したり、問い合わせをして連携づくりをしている。また、担当者からの入居の相談にも迅速に対応できるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりなどは、個別の記録も記載して便りで報告している。金銭管理については、家族に報告されているが、家族の確認印はいただいている。		金銭上のトラブルを防止する観点から、家族には、確認した旨のサインや押印をもらっておくようにしてほしい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などは設立されていない。家族が意見や苦情をホームに伝えられるように意見箱を取り付けたが今年10月に撤去されている。		家族からの意見や苦情は貴重であるので、意見箱の取り付けは再開に向けて検討し、取り付け場所や意見・不満を引き出す工夫をさらに進めて欲しい。例えば利用料金の請求書にアンケートを同封するなどしてはどうだろうか。また、家族会の設立についても、開設されて2年を経過し、課題として取り組んで欲しい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるようにしている。やむなく退職された職員には、利用者への挨拶は控えてもらうようにして、利用者の精神的なダメージを防ぐ配慮をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のスタッフ会議時に勉強会をしているが、全職員が研修を受けられるような体制はできていない。		市町村に対して、研修の機会を設けてもらうように働きかけていくことや近隣のグループホームへの見学や意見交換なども検討してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者同士の交流や研修を目的にした協議会が設立される予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたっては、入居について本人が納得することが前提である。環境の変化になれるように、体験入居などを通じて、よりよくホームでの生活を送ることができるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者を介護される立場にのみおらず、利用者から教えられたり、励まされたりしている。共に支えあう関係であり続けたいと努めている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや希望などを把握していけるように努めている。利用者のペースで生活を送ることができるようになるべく自由な生活・暮らしを日常的に支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がより良く暮らすことを求めて、本人・家族や関係者と話し合い介護計画を作成している。同じような介護計画になりがちで悩むところだが、近隣のケアマネにアドバイスをいただくなどして、よりよいケアプランの作成に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、おおそ3か月に1度定期的に見直しを行い、または状態の変化など利用者の状況に応じて適宜見直しを行っている。特に主治医からの助言・指示などをいただいている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族からの要望には、できるだけ柔軟に対応している。通院介助やお墓参りなどにもホームで支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族からの受診の希望があれば柔軟に対応している。他の医療機関を受診されるのであれば紹介状などの記載を求めている。1年かけて歯科受診につなげた利用者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	薬が変わった時などは、主治医から家族に対して、十分時間をかけて話し合う機会を設けている。終末期を迎えた方もいるので、往診してもらうことで職員も安心して介護に対応できている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保が徹底されるように十分注意している。ホーム内での勉強会でも取り上げるようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか希望に沿った支援ができるようにしている。散歩に出かけたりする方もいれば、体調が思わしくなく出かけない方もいるので、無理強いせず、利用者のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者と職員が同じメニューであり、食べる場所は利用者同士が隣り合って座っているが、職員も見守りができるような席についている。後片付けなども、利用者が自分のできる範囲内のことはしていただいている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、順番が均等になるように配慮している。また、なるべく一人ひとり入ることができるように工夫している。なお、朝の入浴や夜間の入浴にも対応できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の楽しみ事の支援として、日帰り温泉に出かけたり張り絵や切り絵などを行う時間を設けている。利用者の特技や趣味を活かした取り組みを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日であれば、1日1回は散歩している。また、菜園でミニトマトなどの野菜類を栽培するなどして、日常的に外出や戸外に出られるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践されている。日中は、鍵を掛けないで自由に出入りできるように配慮している。情緒の不安定な利用者がある場合には、一時的に鍵をかけてはいるが、状況に応じて鍵を外している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を行っている。消防署より来ていただき応急手当の仕方やAED(自動体外式除細動器)の扱い方などの指導を受けている。ただし、日頃からの地域との連携や協力については、不十分である。		災害対策について、地域との関係強化は欠かせない。運営推進会議等の席で提案されてはいいかがか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分の摂取量の把握に努めている。また、献立については、栄養士などの専門家に助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節を感じられるように装飾を施している。毎月のカレンダーなども季節の話をしながら共同作成している。不快な音や光については、利用者に伺いながら対応している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れたものを持ち込めるように配慮している。ある利用者から、「湯たんぽを利用したい」との相談があったが、こうした利用者からの意向も受け入れている。		